

いよよ秋グループ

21

おもちゃと子供に囲まれて

「おもちゃ図書館グループ」



△子供たちは、伸び伸びと

おもちゃ図書館は、おもちゃをとおして、ハンディを持つ子と持たない子が、一緒に楽しく遊べる場として、昭和59年、そびな学園にできました。

開館は、毎月第1・3木曜日の10時から15時まで。そびな学園の園児を中心に、近所の幼児とお母さんがやってきて、おもちゃで遊びます。部屋の周りの棚には、560個のおもちゃがぎっしり詰まり、まるでおもちゃ屋さんのように。初めての子は、目移りして遊ぶおもちゃが、なかなか決まりません。

私たちボランティアは、そびな学園の園児のお母さんや先生と一緒に子供と遊んだり、おもちゃの消毒、貸し出しなどをします。また、布や綿でおもちゃもつくりします。でも、壊われたおもちゃの修理は無理、だれか協力してくれませんか。

おもちゃ図書館は、来年そびな学園と一緒に広見に移ります。だれでも遊べますので、一度いらしてください。

問い合わせ 保健婦人センター内

ボランティアセンター ☎64-7100

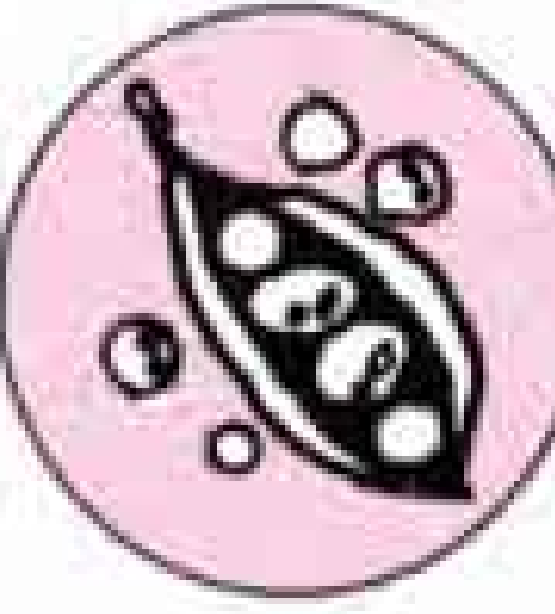
いよいよ秋。編集室で夜になると、虫が鳴き始めました。皆さんのお宅ではいかがですか。「天高く馬肥ゆる秋」と言いますが、編集室の虫の音は、残業で原稿を書いている、スタッフの腹の虫でした。ところで、我が家でも秋の虫と腹の虫のコーラスが聞かれます。

こちら編集室

個性派の道具たち

5

かま



とにかく、大きなかまです。これで御飯を炊いたら、一度に100人前は用意できるそうです。直径が56センチもあって、ヒノキのふたがついています。実はこれ、炊飯用ではなく、本当は大豆を煮るためのかまなんです。

秋のお彼岸のころは、「ねかし物」に一番いい季節。一年分のみそやしょうゆを仕込む季節でした。みそやしょうゆの原料は、大豆に小麦、米や塩。大豆を煮るためのかまは、リヤカーに乗せられて、きょうはこの家、あしたはあそこの家へと、組合の家を順番に回ります。久沢の渡辺源一さんとあや子さんの自宅からは、もう使わなくなったかまを、市立博物館へ寄贈していただきました。「おばあちゃんが使っていたものです。大豆は、手ですぐにつぶれるまでやわらかく煮ますから、一日がかりの仕事でね。朝、暗いうちから煮てましたねえ。添加物の入らない、自家製のみそやしょうゆに魅力はあっても、小麦も手に入りにくいし、しょうゆの「しぼり屋」さんもないので、今では、買っています」と、あや子さん。

近所の渡辺綾子さん七十八歳も、このかまを使ったひとり。「七、八人の家族のしょうゆだったら、大豆一斗に、小麦が一斗。大豆は一晩水につけてから煮ます。きれいな黒色の香りのいいしょうゆができましたよ」と、話してくれました。



△大きなかまでしょよとあや子さん

ぼくの作品 わたしの作品



丘小学校の一年生は、学校で一人一人が自分の木を決めるなど、自然と親しんでいます。学校での木登りと、夏休みに馬に乗った絵をかいてくれました。



わたしのきは、かしのきです。きとなかよしになって、きのぼつたら、とおくのほうのきもみえたよ。たなばたさまの、かざりもしてあげたよ。



ふじた まり



ぼくは、こぶちざわにいつてきました。ぼくじょうで、うまのりしました。うまは、ぼくがのつておもしろいかな。とてもきもちよかったです。



むらまつだいき